



Racing Specialities

保存版

STRADA

TX-STRADA

取扱説明書

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社「品質管理部」までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。



本書の各図記号は以下のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本製品は日本国内仕様です、国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており日本国内仕様である本製品は適合していません。

安全のため、守って頂きたいこと

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願いいたします。

▼ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。

安全のためには、「自分の頭にピッタリ合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということがとても大切です。緩すぎたりキツすぎたりしてヘルメットのサイズが自分の頭に合っていないと、ヘルメットは安全性能を十分に発揮することができません。下記の「試着のポイント」を参考にヘルメットをお選びください。



ONE POINT!

- ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、オープンフェースやフルフェース等タイプが異なると、かぶった際のフィット感も異なります。
- ヘルメットをかぶった状態で頭を前後左右に振っても、頭の動きに対してヘルメットがワンテンポ遅れずにしっかりと追従すること。
- ウレタン素材等の進歩によって、「少しきつめを選んでおけば、使っているうちに馴染んで緩くなる」といった事は、最近ではあまり期待できません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付けや圧迫などを感じないサイズのヘルメットをお選びください。

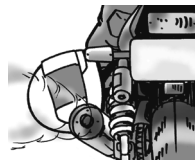
▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を正しく締めていなければヘルメットをかぶらない状態と同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を正しく締めてください。



▼ヘルメットの持ち運び方。

ヘルメットホルダーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。



▼あご紐（ストラップ）のコンディションにご注意ください。

あご紐は安全の要です。短くて硬いアゴ髭と長時間接触したり、路面等の硬いものと擦れたり、ライディングジャケット等の襟部分の面ファスナーなどに触れると繊維が徐々に千切れてあご紐に毛羽立ちが生じます。あご紐に毛羽立ちやほつれが生じた場合は、穴あけ等の改造や転倒による痕跡がなければ、弊社アフターサービス窓口にてお預かりによる交換修理を承ることができます（修理対象モデルに限ります）。弊社ホームページ〈修理受付フォーム〉より、ご確認いただきお申込みください。

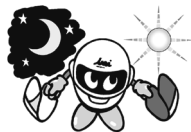
※あご紐の修理代金とヘルメットの往復送料は、お客様のご負担となります。



あご紐が毛羽立ったままでヘルメットを使い続けると、ほつれが進行してあご紐が次第につれて（ひきつって）変形してしまいます。変形したあご紐では装着時の締め付けが不十分だったり、衝撃を受けた際にDリングから抜けるおそれがあり大変危険です。

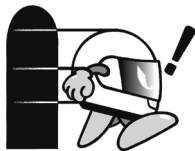
▼走行条件に合ったシールドをお選びください。※シールドを装備したヘルメットに限りです。

周りが暗くなってきたにも関わらずスモークシールドのままで走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり大変危険です。長距離ツーリングなどで夜間も走行する場合は、アライヘルメット純正クリアーシールドもしくは、ライトスモークシールドに交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



▼走行中の急激な環境変化に注意する。※シールドを装備したヘルメットに限りです。

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温・湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時にはシールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調節するなどの注意が必要です。



▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を食器洗い用中性洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。尚、ヘルメット内の衝撃吸収ライナー（発泡スチロール製）は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。尚、ホルダーやダクト等の樹脂成型パーツの塗装は、必ずポリカーボネート樹脂用の塗料と溶剤をご使用ください。



▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを50℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー、トーチ類・直火などで絶対に乾かささないでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が50℃以上に達する場合は使用をお止めください。



▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは周波数の高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。帽体や発泡スチロールに孔をあけたり、削ったりするのはおやめください。



▼衝撃を受けたヘルメットは再使用できません！

ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例えば表面に大きなキズ等が見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。



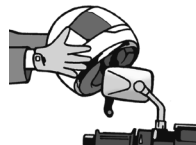
▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドやサンバイザーの開閉は視界の確保などに必要なので、この限りではありません。



▼ヘルメットをミラーに引っ掛けないでください。

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナーが変形するおそれがあり、変形したライナーは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメット裾部のエッジモールを傷付け、それをきっかけにエッジモールが剥がれたり、削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。帽体の裾部は硬いので、それを保護しているエッジモールが無いと転倒時に首や肩など身体を傷つけるおそれがあります。



▼長期間ご使用の場合は樹脂成型パーツの点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型パーツ類は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、ホルダーやワッシャー類などはとても重要なパーツですので、亀裂や磨耗、破損を発見した場合は、パーツの交換を早急に行なってください。



▼ヘルメットの性能は永久不変ではありません。

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、SGマークの有効期限である三年※を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※（一財）製品安全協会のSG被害者救済制度



▼ヘルメットを不安定な場所に置かないでください。

オートバイのタンクやシート上など平面でない滑りやすい場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが落下するおそれがあります。ヘルメットは中身が空っぽの状態でも1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。

※例えば1m以下からの落下であっても、同一箇所に複数回衝撃が加わった場合はヘルメットの性能が損なわれます。



▼ペットの近くにヘルメットを置かないでください。

ペットの活動範囲にヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したりする場合があります。また、齧^げ歯^{っしる}類の場合には内装生地やウレタン製のクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧^げ取^{っしる}たりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分ご注意ください。



▼ヘルメットの製造年月日について

ヘルメット内面に貼られる検査ラベルに最終検査を行った日付が、そのヘルメットの製造年月日としてスタンプされています。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示される数列等は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造年月日とは関係ありません。

※製造年月日「190708」の場合は、2019年7月8日となります。



▼偏光レンズを使用したサングラス・保護メガネ等のご使用について

シールドは、ポリカーボネイト樹脂を原料とする「金型射出成形」と「平板の熱曲げ」の二種類の製造方法があります。しかし、いずれの方法においても成形時に少なからず残留応力が発生します。その残留応力によるシールドの分子量の変化が偏光レンズによって虹色の模様となり、シールド越しの風景が見え辛くなります。この事をご理解いただき、偏光レンズの使用はお控えください。

▼ベンチレーションダクトについて

- ベンチレーションダクトは両面テープやネジでヘルメットに固定されています。無理に外そうとすると、ヘルメット本体やベンチレーションダクトが破損するおそれがあります。
- トップケース等ケース類にヘルメットを収納する際は、ケース内部（特に天井部）とヘルメットとの間に隙間があるかどうか確認を行ってください。この隙間が十分確保されていない場合、ケースの蓋をつよく閉じた際、ヘルメットに打撃が加わりベンチレーションダクトを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットを取り出すきっかけとしてダクトの開口部などに指をかけないでください。
- 暑い日に、ケース類にヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、ヘルメットの収納部がマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

▼つや消し塗装のヘルメットについて

- つや消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた軟らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なつやが生じてしまいますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの台所用洗剤を水で薄めてご使用ください。
- つや消し塗装面を消しゴムで強くこすると、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。
- つや消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性 / 水性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分ご注意ください。

▼ヘルメットの保管方法

直射日光に長時間晒した場合、紫外線の影響で退色（色あせ）するおそれがあります。着用後のヘルメットは直射日光が当たらない場所に保管してください。※特に蛍光色を採用したヘルメットはご注意ください。

▼エマージェンシータブについて

エマージェンシータブとは、ライダーが何らかの衝撃で負傷し、救護者がライダーのヘルメット脱帽させる際に、システムパッドを引き抜くことで、ヘルメットの脱帽をスムーズにすることを目的としたシステムです。緊急時に救護者が使用します。（詳細は本書54ページに記載）



ポイントラベル

▼ヘルメットの裾カットについて

裾カットがハイパーカット（鎖骨を避けるように湾曲させた裾カット）のヘルメットを平面上に置くと左右にグラグラする傾向がありますので、ヘルメットを棚などに置く際には十分ご注意ください。



シールドカラーの選び方



晴天

晴れの日、陽射しや路面の照返しによる眩しさを軽減するスモークシールドがお勧めです。

※スモークシールドは、周辺が十分に明るい時間帯に限りご使用ください。



曇り・雨

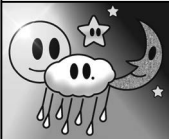
曇りや雨天の走行には、クリアーシールドがお勧めです。

※アルコール成分を含む撥水剤（自動車窓用）はシールド素材を傷め、破損させるおそれがありますので絶対に塗らないでください。



夕方・夜

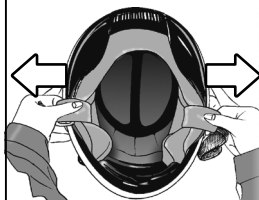
夕方や夜にはクリアーシールドをお勧めします。ツーリングなどで走行が夜間にも及ぶ場合は、日没前に安全な場所で停車して、昼用シールドからクリアーシールドに交換してください。



全天候

朝→昼→夜、晴れ→曇り→雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学、配達業のライダーにはライトスモークシールド・セミスモークシールドがお勧めです。

FCSを採用したヘルメットのかぶり方



FCSは頬パッドが下まで回りこんでいるため間口が狭くなっています。あご紐をしっかりとって左右に広げると間口が広がり、ヘルメットがかぶりやすくなります。

※ヘルメットを脱ぐときも同様に、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。



ヘルメットは真上からではなく、額から先にかぶります。このようにする事で前髪が目の前に垂れ下がりにくくなり、同時に耳たぶの折れも防げます。



天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っ張り、ヘルメットの位置を整えます。最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。



Racing Specialities

TX-STRADA の特長

本製品は、市販のヘルメット用通信システムアクセサリーの取り付けをより安定させる帽体形状となっています。



※画像はTX-V

TX-V EP(エコピュア)システム内装

海外市場で高い評価を受けているアライの固定内装の優れたかぶり心地を着脱式内装でも再現すべく開発されたフルシステム内装は、長時間の走行でも違和感のない心地良いフィッティングを実現。

TX-V EP(エコピュア)システムパッド

FCSを取り入れたシステムパッドは、ウレタンパッドを支える【バックプレート】の持つスプリング効果によってアゴ下まで包み込むことで深いかぶり心地を与えます。また、このプレートの変形作用によってヘルメットの着脱もスムーズに行うことができます。

①デルタダクト6

外気をヘルメット内部へ導きます。

②フロントロゴダクト

額部分に備わったフロントロゴダクトにより、外気をヘルメット内部へ導きます。

③AR スポイラー

ARスポイラーは、ダクト内の三ヶ所の排気口から、ヘルメット内部にこもる熱気の排出を行います。

④TX-Vマウスシャッター

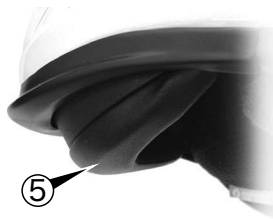
口元とシールド方向に外気を導く、スライド方式のマウスシャッターを採用。

⑤可動式エアロフラップ

走行時のヘルメット下部を流れる空気を整え、風の巻き込みを抑えます。

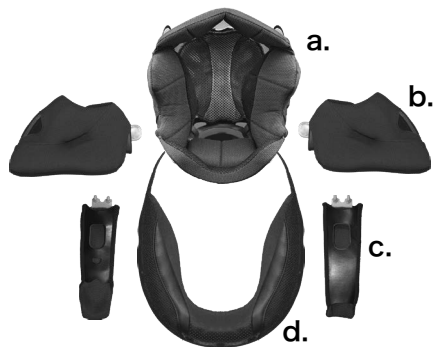
⑥エマーゼンシータブ

エマーゼンシータブとは、ライダーが何らかの衝撃で負傷し、救護者がライダーのヘルメット脱帽させる際に、システムパッドを引き抜くことで、ヘルメットの脱帽をスムーズにすることを目的としたシステムです。緊急時に救護者が使用します。



ONE POINT!

本書39ページにおいて、通信システム取り付けについてのご案内を行っています。



システム内装類各部名称

a.TX-V EP システム内装

b.TX-V EP システムパッド

c.TX-V EP ストラップカバー

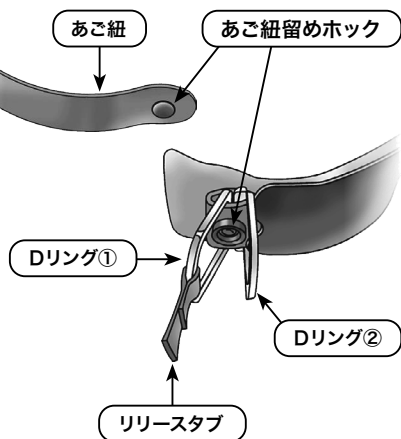
d.TX-V EP システムネック

目次	ページ
安全のため、守って頂きたいこと	2～10
A あご紐の正しい締め方	14～15
B シールドの開閉	16
C マウスシャッターの操作	17
D フロントロゴダクトの操作	18
E デルタダクト6の操作	18
F ARスボイラーの操作	19
G エアロフラップの操作	19
H ノーズディフレクターの着脱	20
I オプションを使用した各スタイルについて	22～23
J VAS-A 構成パーツ名称	24～25
K バイザーの着脱について	25
L シールドの着脱	26～29
M シールドベースの着脱	30
N システムパッドの着脱	34～35
O パッドカバーの着脱	36～37
P システム内装の着脱	40～41
Q ヘルメット内装サイズの調節	43
R ストラップカバーの着脱	44～47
S システムネックの着脱	48～49
T ヘルメットのお手入れ	50～51
U オプションパーツリスト	52～53
内装生地のコットン化について	53
エマージェンシータブについて	54～55

A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願いいたします。

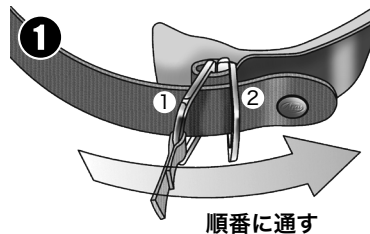
あご紐の各部名称



①二つのDリングに通す

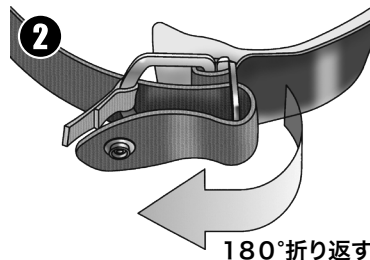
あご紐を、Dリング①→Dリング②の順に通します。

※あご紐を通す際には、途中でねじれさせないようにご注意ください。



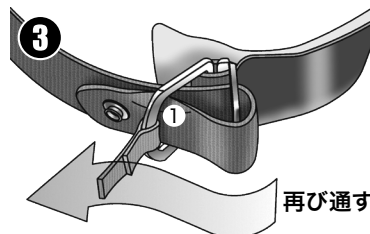
②あご紐を180°折り返す

二つのDリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っぱってゆるみを取り除きながら180°折り返します。

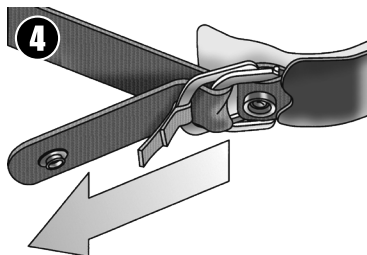


③Dリング①に再び通す

折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。



あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。



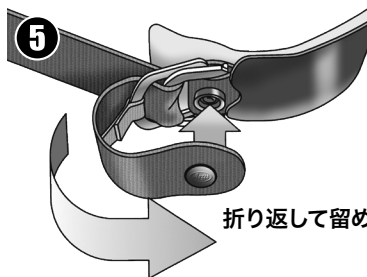
④あご紐を引っぱる

あご紐の先端部を持って矢印の方向に引っぱると、あご紐が締まります。

ONE POINT!

あご下とあご紐の間に指を1～2本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

※人差し指と中指の一番太いところが直径2cm未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。



⑤余った先端部を留める

余ったあご紐の先端を、あご紐留めホックで留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへの付着を防止できます。

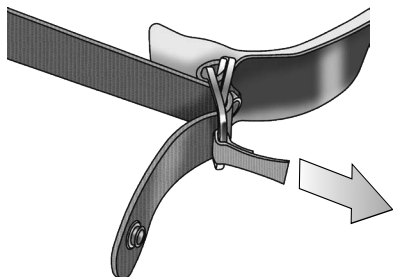
折り返して留める

ATTENTION!

あご紐が乗車服やレインウェアなどの襟元の面ファスナーに付着すると後方確認の際に首の動きを妨げるおそれがあります。また、あご紐が面ファスナーへ付着すると毛羽立ちの原因になります。

リリースタブの使い方

あご紐留めホックを外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っぱると、あご紐を簡単に緩めることができます。



あご紐を【あご紐留めホック】で留めただけの状態であご紐を持たないでください。【あご紐留めホック】が外れてヘルメットが落下して破損させるおそれがあります。

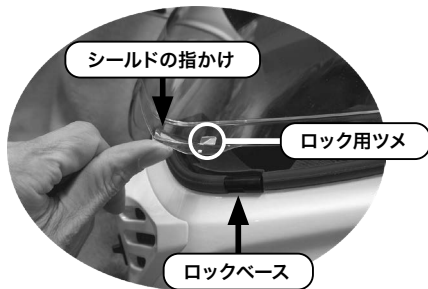


B シールドの開閉

① VAS-A MV シールドの開き方（シールドロックの解除）

シールドを開くには、シールドロックの解除を行う必要があります。

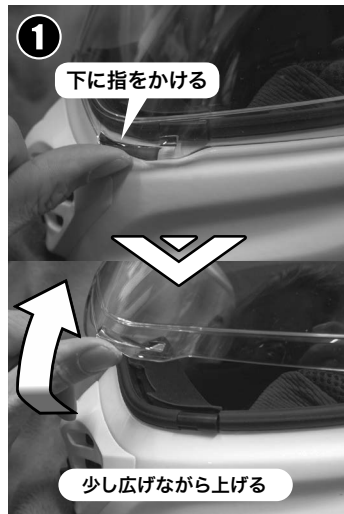
【シールドの指かけ】の下に指をかけ、少し外側に広げながらシールドを上げると、シールドロックの解除とシールドオープンが同時に行えます。



② VAS-A MV シールドの閉め方（シールドロックの作動）

【シールドの指かけ】の上に指をかけ、止まる位置まで下ろすとシールドは、シールド側のロック用ツメがロックベースに引っ掛かってロックされます。

シールドを外側に広げる動作（ロック解除）を行わずにシールドを上げてみて、もしシールドが開くようであれば再度シールドを下ろして確実にロックさせます。



シールドロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。

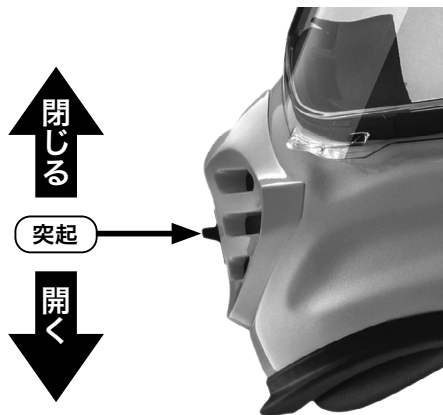


ロックの解除の動作を行わずにシールドを無理に開くと、ヘルメット側のロックベースが破損します。

C マウスシャッターの操作

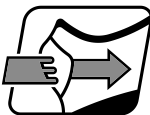
TX-V マウスシャッターの開閉

シャッター中央の突起を引き下げるとシャッターが開き、突起を上げるとシャッターは閉じます。



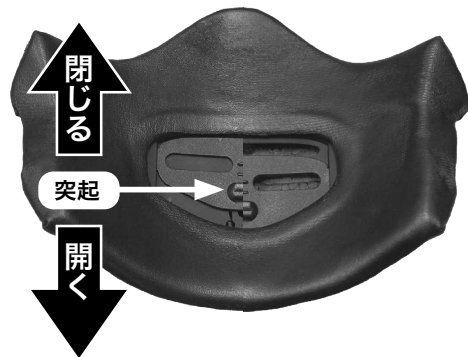
Introduction Mode

マウスシャッター・インナーシャッター両方のシャッターを開くと【イントロダクションモード】となり、流入した空気は口元に導かれます。



インナーシャッターの開閉

センターパッドの内面に設けられたインナーシャッターは、シャッタープレートの突起を引き下げるとシャッターが開き、突起を上げるとシャッターは閉じます。



Defrost Mode

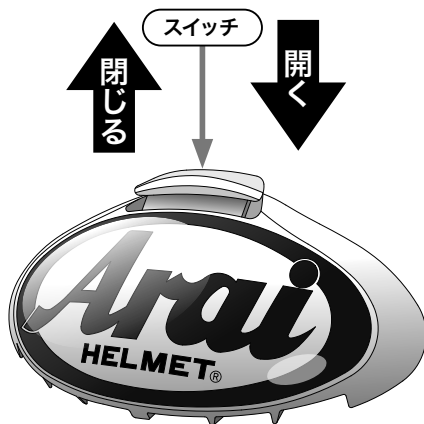
インナーシャッターのみ閉じると【デフロストモード】となります。流入した空気はシールド内面に向けて吹き出してシールドの曇りを軽減します。



D フロントロゴダクトの操作

フロントロゴダクトは【吸気ダクト】です。

ダクト上部中央のスイッチを押し下げるとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。スイッチを引き上げるとシャッターが閉じて外気の流入は止まります。



※図は、シャッターを閉じた状態。

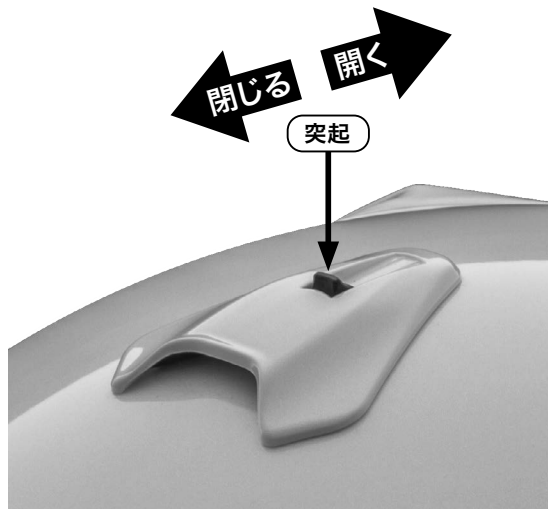
ATTENTION!

雨天時は吸気側ダクトのシャッターを全て閉じてヘルメットをご使用ください。尚、シャッターを閉じてても水や空気を完全には遮断できませんので、予めご了承ください。

E デルタダクト6の操作

デルタダクト6は【吸気ダクト】です。

ダクトのシャッター操作は、スイッチの突起をスライドさせて行います。突起を後方に移動するとシャッターが開き、突起を前方に移動するとシャッターは閉じます。



※写真は、シャッターを閉じた状態。

F ARスポイラーの操作

ARスポイラーは【排気ダクト】です。

ARスポイラー背面のスライドスイッチの突起を、後方にスライドさせるとシャッターが開き、前方にスライドさせると閉じます。



ONE POINT!

ARスポイラーは、三カ所の排気口よりヘルメット内部の空気を排出します。

G エアロフラップの操作

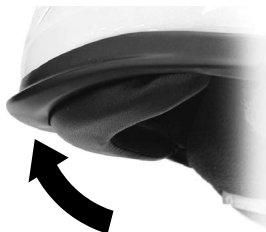
フラップの展開

フラップ下部中央を掴んで、矢印の方向に引き出します。



フラップの格納

フラップ下部中央を、矢印の方向に指で押し上げます。



ONE POINT!

ESチンカバーV (オプション) を取り付けることも可能です。



フラップを止まる位置以上に無理に引き出すと、フラップが脱落するおそれがあります。尚、ヘルメットの着脱時や持ち運ぶ際には、エアロフラップを内部に格納してください。

H ノーズディフレクターの着脱

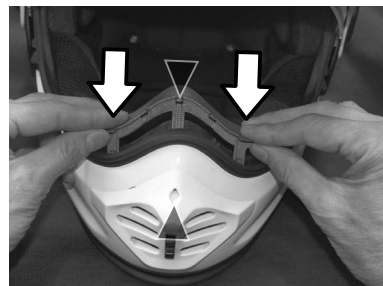
VA ノーズディフレクターの外し方

VA ノーズディフレクターは、端をしっかりと掴んで引き上げると取り外すことができます。



VA ノーズディフレクターの付け方

VA ノーズディフレクターは、窓ゴムとセンターパッドとの隙間に差し込みます。ノーズディフレクター中央とヘルメットの中心を合わせ、フックを奥までしっかりと差し込んでください。



ONE POINT!

ノーズディフレクターは、呼吸がシールドに直接当たらないようにブロックする効果があります。



Racing Specialities

1 オプションを使用した各スタイルについて

本製品は、オプションパーツを取り付けることによってスタイルチェンジすることが可能です。(カッコ欄の※がついているものがオプションパーツになります。本製品には、付属していません。)

TX-STRADA(ON-ROAD)



マルチパーパスモデルである、TOUR-CROSS V ベースに、オンロード向けのリスタイルを施したモデル。

VAS-A MV シールド	使用する
TX-V2 ホルダー	
※ TX-V バイザー	使用しない
※TX-V バイザーワッシャー	使用しない

STYLE CHANGE!



◀ホームページにて、スタイルチェンジ方法に関する動画を配信しています。

ADVENTURE



シールドとバイザーを同時装着した、アドベンチャータイプのモーターサイクルに適したアドベンチャースタイル。

VAS-A MV シールド	使用する
※ TX-V ホルダー	
※ TX-V バイザー	
※TX-Vバイザーワッシャー	

OFF-ROAD

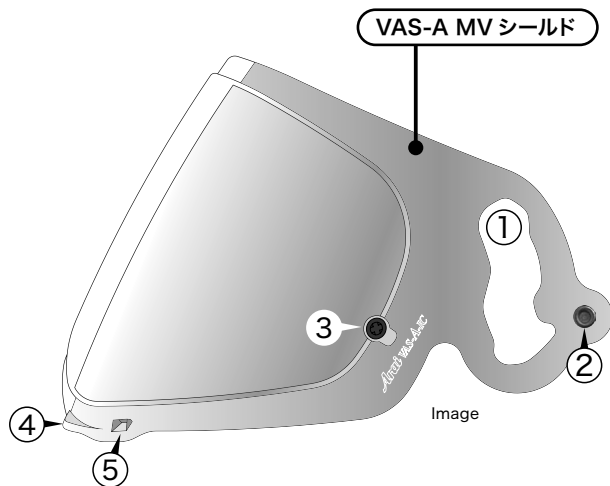


シールドの代わりにゴーグル装着を前提とした、オフロードバイクに適したオフロードスタイル。

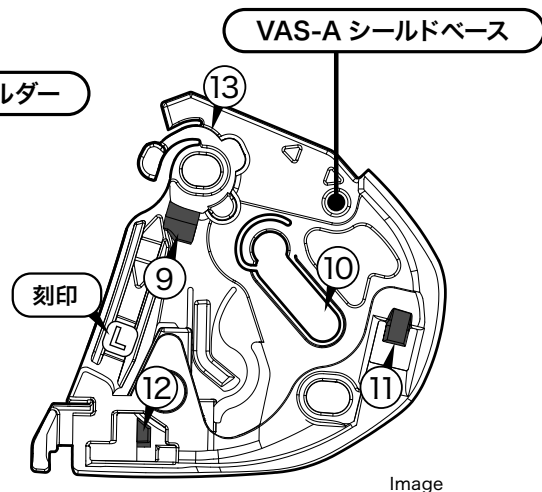
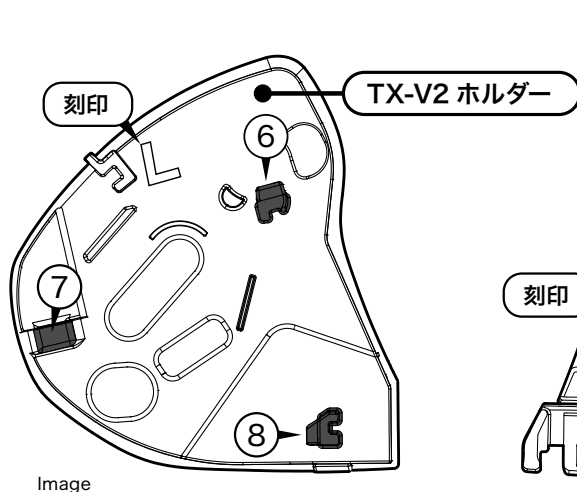
VAS-A MV シールド	使用しない
※TX-V ホルダー	使用する
※TX-V バイザー	
※TX-V バイザーワッシャー	

※TX-VホルダーとTX-Vバイザーワッシャーを使用し、TX-Vバイザーを外してのご使用も可能です。

J VAS-A 構成パーツ各部名称



VAS-A MV シールド	①	シールド・ガイドレール
	②	シールドピン
	③	ピンロック用留め具
	④	シールドの指かけ
	⑤	シールドロック用ツメ
TX-V2 ホルダー	⑥	ホルダーツメA
	⑦	ホルダー受けB
	⑧	ホルダーロック
VAS-A シールドベース	⑨	ベース受けA
	⑩	シールドピン・ガイドレール
	⑪	ベースツメB
	⑫	ホルダーロック受け
	⑬	シールドベースの軸



K バイザーの着脱について

本製品には、バイザーは付属していません。

オプションパーツを用いることで、バイザーの取り付けが可能です。

(必要なパーツは本書の22 ページを、部品番号は52 ページをご参照ください。)

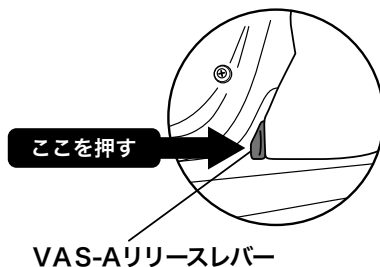
CHECK POINT!

ホルダー裏面やシールドベース表面には、L : Left (左)、R : Right (右) 等の刻印が入っています。

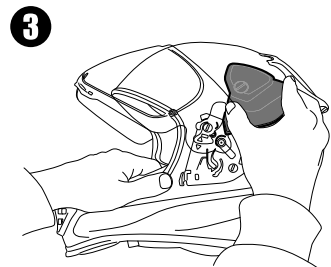
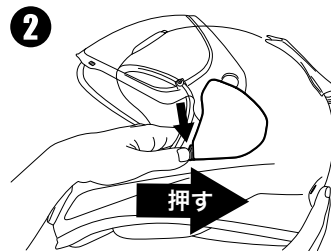
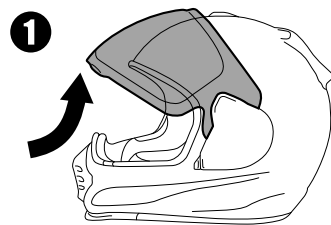
L シールドの着脱

VAS-A MV シールドの外し方

- ① VAS-A MV シールドが止まる位置まで、シールドを上を開けます。
- ② TX-V2 ホルダーの前方に見えるVAS - Aリリースレバーを、矢印の方向に押します。



- ③ TX-V2 ホルダーは【ニヶ所のツメ】と【ホルダーロック】でシールドベースに固定されているので、下向きに少しスライドさせるとTX-V2ホルダーを外すことができます。
TX-V2 ホルダーは左右とも外しておいてください。



④左右のホルダーを外すとシールドへの可動制限が解除されるので、シールドが止まる位置まで更に上へ開けます。この止まった位置が【シールド着脱ポジション】となります。

⑤シールド着脱のポジション時は、シールドピンの下側に指をかけ、めくるように持ち上げるとシールドベースからシールドを取り外すことができます。

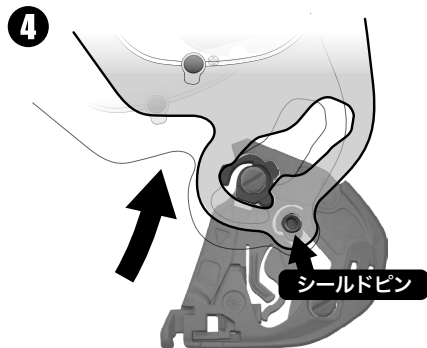
ATTENTION!

反対側も同様の手順で取り外しを行いますが、既に取り外しを行った側のシールドピンがヘルメットに接触しないようご注意ください。

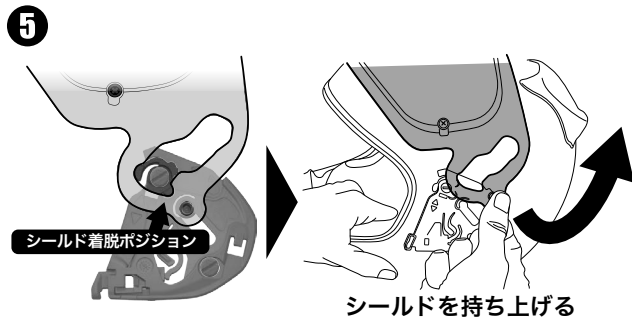
CHECK POINT !



◀ホームページにて、シールドの着脱方法に関する動画を配信しています。



シールドが更に開く



VAS-A MV シールドの付け方

① VAS-A シールドベース上に設けられた【シールドベースの軸】にシールド・ガイドレールの下側をはめ込みます。

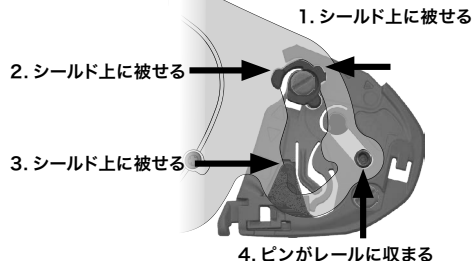
そして、シールドピン・ガイドレールの最上端の位置にシールドピンを合わせてパチンとはめ込みます。

反対側も同様の手順でシールドの取り付けを行ってください。

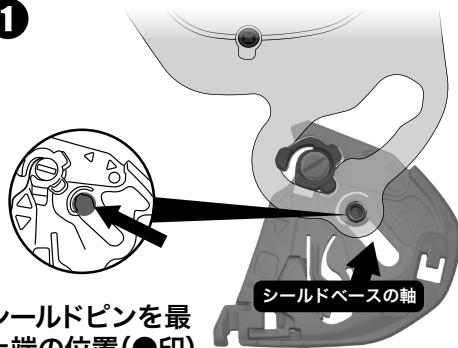
② シールドベースから外れないように、シールドを押さえながら止まる位置まで下げます。

この時、【シールドベースの軸】のツメニヶ所とシールドベースの一部がシールドの上に被さっていて、シールドピンがシールドピン・ガイドレール内にきちんと収まっていることを確認してください。

必ずCHECK!

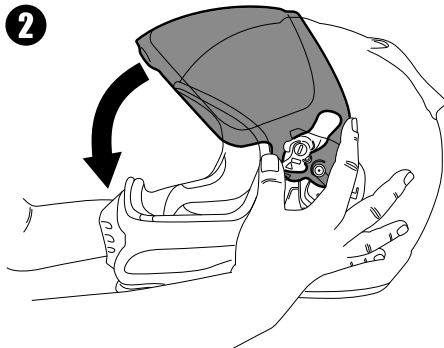
- 
1. シールド上に被せる
 2. シールド上に被せる
 3. シールド上に被せる
 4. ピンがレールに収まる

1

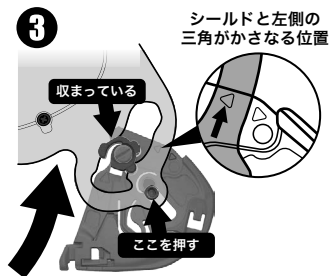


シールドピンを最上端の位置(●印)に合わせる

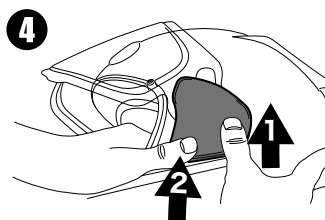
2



③ シールドが1度途中で止まる中間位置(シールドベースの三角の目印の辺り)まで開けます。次の作業ではホルダー内面の、【ホルダーツメA】と【ホルダー受けB】を、シールドベースの【ベース受けA】と【ベースツメB】に引っかけます。

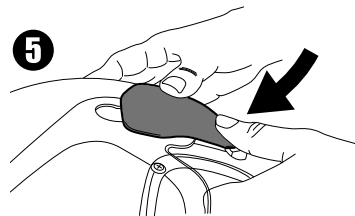
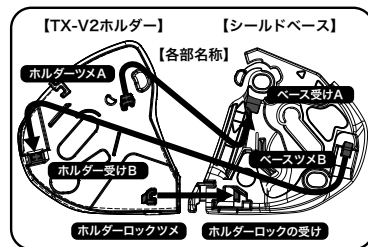


④ ホルダーの上に両手の親指を置き、シールドベースの少し下(3ミリ程)に重ね、後ろ側から先にはめ込むイメージで矢印の方向に押し上げて2ヶ所のツメをはめ込みます。



スライドさせ、ツメにはめ込む

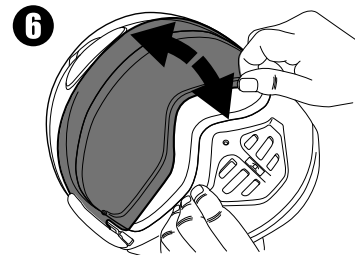
⑤ ホルダーロックを押し込み、ベース側のホルダーロックの受けにはめ込むと、ホルダーは固定されます。



ツメがはまったら、押し込む

ATTENTION!

シールドやホルダーの取り付けが不完全な場合、走行中に外れるおそれがあります。必ず動作確認を行ってからヘルメットをご使用ください。



M シールドベースの着脱

■シールドベースは通常のご使用では外す必要はありませんが、シールドベースの交換を行う場合は以下の説明をご覧ください。尚、刃幅約7mmのマイナスドライバーを予めご用意ください。※製品にマイナスドライバーは付属していません。



目印にテープ状の付箋を使用した例

VAS-A シールドベースの外し方

シールドベースを固定している二本のネジを、マイナスドライバーで左に回して外します。

VAS-A シールドベースの付け方

シールドベースの左右を刻印で確認し、予め付けておいた目印に合致させてヘルメットに取り付けます。ネジは初めに手で右に回し、確実にネジ穴に入っていることを確認してからマイナスドライバーで回し、止まった位置から四分の一回転未満が締める目安です。ネジの締め忘れや締めすぎには十分ご注意ください。シールドベースの取り付けが完了したら目印は除去してください。

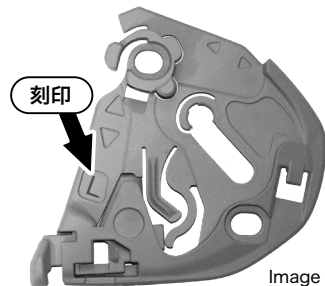


ONE POINT!

シールドベースは、ヘルメットに取り付ける際にシールドの密着性を高める位置調節が行われています。しかし、シールドベースを外すとその調節がリセットされてしまいます。シールドベースを外す際は、シールドベースの位置に目印を付けておいてください。

※粘着力の弱いテープ類や、容易に消せる水性ペンをご利用ください。尚、つや消し塗装のヘルメットには水性ペンは使わずに、テープ類をご使用ください。

L : 左 / R : 右



シールドベースの位置調整による、シールドの密着具合の最適化

■作業にあたり、刃幅約7mmのマイナスドライバーを予めご用意ください。

※製品にマイナスドライバーは付属していません。

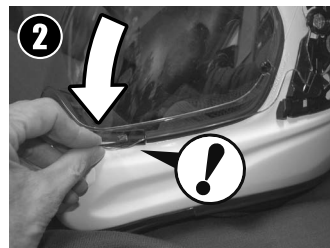
①リリースレバーを操作して左右のホルダーを外します。(本書26ページを参照) その後、シールドベースが自由に動かせる程度にマイナスドライバーを使って全てのネジを半回転ほど緩めます。

②シールドの指かけに指をかけて、カチッ!と止まる位置(ロック完了位置)まで確実にシールドを下げてください。

③シールドを手のひらでシールドベース側に押し、シールドの内面が窓ゴムに密着するようにしてネジを締めます。この作業を左右に行ってからシールドを半開にして、左右のホルダーを取り付けます。(本書29ページを参照)

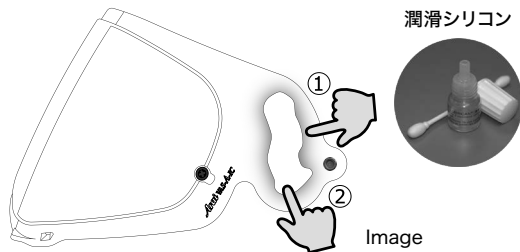
ONE POINT!

シールドベースの着脱や交換を行ったり、標準装備のシールドとは異なる種類のシールドに付け替えた際、ヘルメットへのシールドのアタリ(密着具合)がきつく、または緩くなってしまう場合があります。そのような時には、当ページでご案内する「シールドベースの位置調整による、シールドの密着具合の最適化」を行ってください。



シールドの動きが渋くスムーズでない場合は

一旦シールドを取り外し、市販の綿棒に潤滑シリコンを少量含ませてシールドガイドレール①と内側に突き出たシールドピンの軸周り②に塗布します。その後、シールドをヘルメットに取り付けて数回上下に動かして潤滑シリコンを十分に馴染ませてください。



窓ゴムへの潤滑シリコンの塗布

上の作業と並行し、市販の綿棒に潤滑シリコンを少量含ませてヘルメットの窓ゴムのシールドに触れる部分にも、右写真で指さす白い点線の範囲に塗布してください。反対側も同様に塗布してください。





Racing Specialities

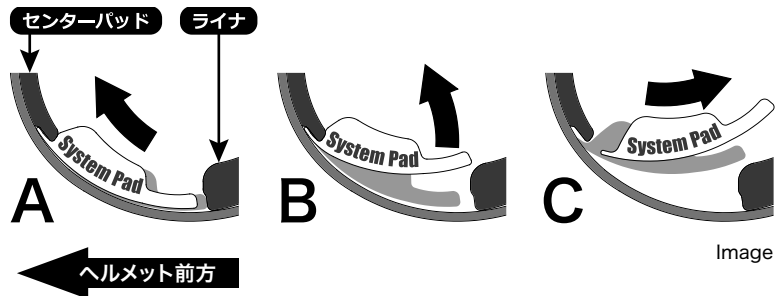
N システムパッドの着脱

TX-V EP システムパッドの外し方

■予め、左右のスピーカーベースを外しておきます。(本書39ページ参照)

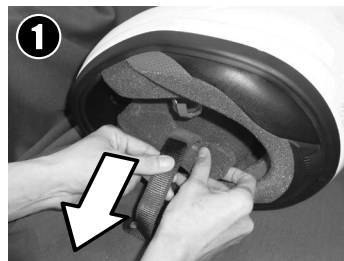
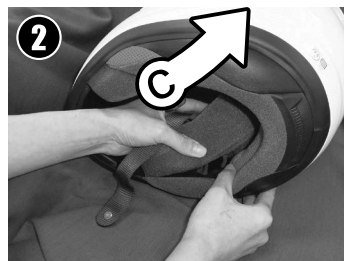
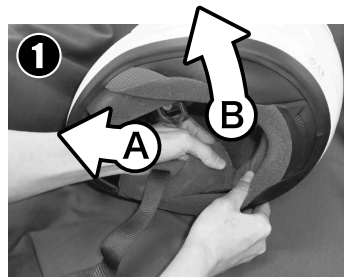
①システムパッドを掴み、センターパッド側に押し付けてライナーへの引っかかりを解除します。(下図A) そして、システムパッドの後方を持ち上げます。(下図B)

②システムパッドの後方が外れたら、斜め後方に抜き取ります。(下図C)



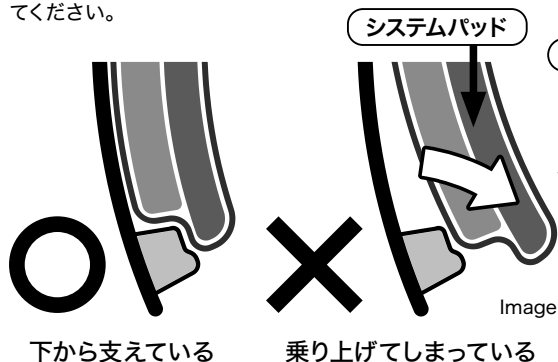
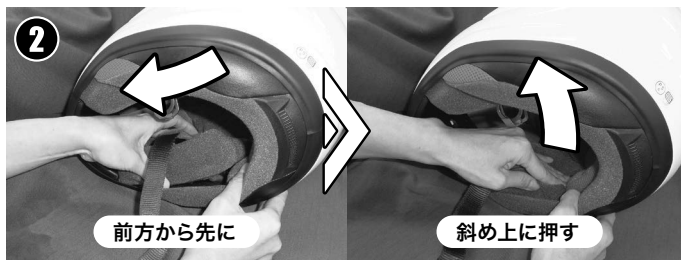
TX-V EP システムパッドの付け方

①システムパッド裏の表示ラベルで左右を確認し、取り付けを行う側のシステムパッドの中央の穴に予めあご紐を通しておきます。そして、あご紐を引っばって弛みを取り除きます。



②システムパッド前方のツメから先にヘルメットにはめ込みます。センターパッドの隙間にシステムパッド前方のツメを奥までさし込みます。そして、システムパッドの後方を、ヘルメット側へ斜め上に押し付けてはめ込みます。

③【ストッパー】はシステムパッドの後部を下から支えます。このストッパーにシステムパッドの発泡スチロール部分が重なって乗り上げていない事を確認してください。



■最後に、左右のスピーカーベースを耳部分の丸いくぼみに形状を合わせて貼り付けます。



CHECK POINT!



◀ホームページにて、システムパッドの着脱方法に関する動画を配信しています。



システムパッド中央の穴にあご紐を通さないでシステムパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。また、システムパッドを付けずにヘルメットを着用するのも大変危険です。

システムパッド各部名称



システムパッドの向きについて



ONE POINT!

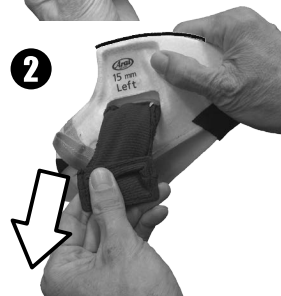
システムパッドは、肌に接する側が表です。

○ パッドカバーの着脱

パッドカバーの外し方

① 後部より先にパッドカバーを外し、その後全体を外します。

② パッドカバー裏面のストッパー（あご紐の通る穴の、四角く固い部分）を持ってパッドカバーを引き出します。引き出す際には、パッド本体（発泡スチロール製）を壊さないようにご注意ください。



ONE POINT!

パッド本体は熱や変形に弱いデリケートな素材で構成されているので、やさしく手洗いしてください。取り外したパッドカバーは、洗濯機で洗うことができます（洗濯ネットの使用を推奨）。

パッド本体の表示



パッドカバーの表示



ONE POINT!

必ず、同じ方向の表示ラベルをベアにしましょう。

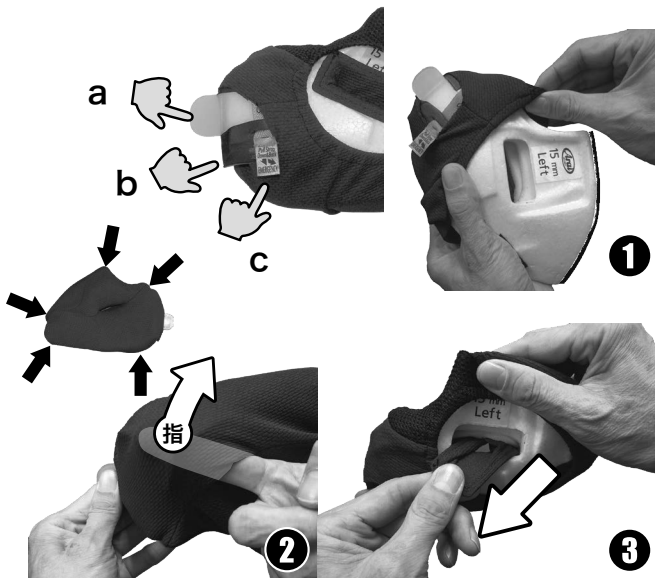
パッドカバーとパッド本体には、左 (L : Left) 右 (R : Right) がラベルやシールによって表示されています。

パッドカバーの付け方

① 同じ方向のパッド本体とパッドカバーを用意して、前方からパッドカバーをかぶせます。この時、パッドカバー前方の穴からパッドのツメ【a】とパッドの角【b】とエマージェンシータブ【c】が出るようにパッドカバー位置の調整を行い、位置が整ったら後方部分にもパッドカバーをかぶせます。

② パッドカバーをかぶせた直後は、ウレタンパッドの角がパッドカバーに押されて丸まっています。このままではかぶり心地に影響するのでウレタンの角を出す作業が必要となります。ウレタンパッドの角を出すには、パッドカバー表面の中央の穴に指を入れ、矢印で示した部分のパッドカバーを指先でグイッと引っ張り上げます。すると、パッドカバーとウレタンフォームとの間に空間ができ、ウレタンの角が回復します。

③ パッド本体の中央の穴にストッパーを縦向きに通し、パッド本体裏面の窪みに収めます。



エマージェンシータブについて

エマージェンシータブが引き出されている場合は、タブを止まる位置まで引っ張り上げます。そして、引っばったループは、パッドカバー裏面とパッド本体の間に収めます。



エマージェンシータブが周辺物に引っ掛かるおそれがあります。エマージェンシータブを引き出したままで使用するのはお止めください。



調節パッドについて

システムパッドには、剥がして厚みを変更できる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことでパッドの厚みを5mmほど薄くでき、フィット感を緩くすることができます。

調節パッドの取り除き方

システムパッドからパッドカバーを外し、一番上に貼られている調節パッドを剥がします。このパッドは本体パッドにストライプ状に部分接着されているので容易に剥がすことができます。調節パッドを剥がし終えたら、システムパッド本体にパッドカバーをかぶせてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。



調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようご注意ください。剥がした調節パッドは、お住まいの地域の「軟質ポリウレタンフォーム製品」の分別ルールにしたがって廃棄してください。

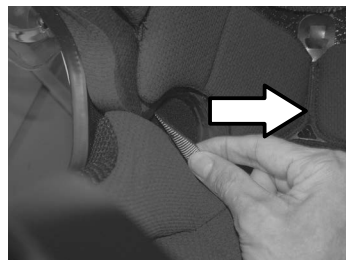
通信システムの取り付けについて

システムネックをめくると、通信システムの余ったコード等を収めることができる【通信システム専用ポケット】が見えます。通信システムのコード等を収める際は、出っ張ったり、きつく折り曲げないようにご注意ください。



スピーカーベースについて

スピーカーベースが必要ない場合には取り外してご使用ください。スピーカーベースは面ファスナーで内装に止められているので、下側を摘んで引っ張れば外すことができます。



ヘルメットに通信システムを取り付ける際は、お買い求めの通信システム取扱説明書、または通信システム販売メーカーのWebサイトをご参照になり、適切な位置に取り付けてください。

P システム内装の着脱

TX-V EP システム内装の外し方

①内装は四つのホックで衝撃吸収ライナーの内面に取り付けられています。それぞれのホックになるべく近い枠（保持プレート）を持ち、ヘルメットの中心に向けて引っばってホックを取り外してください。



Image

それぞれのホックを引っばる向き

②ヘルメット内で半球形に開いているシステム内装を折り畳んで取り出します。

ONE POINT!

外したシステム内装は、折り癖がつかないように広げておいてください。



TX-V EP システム内装の付け方

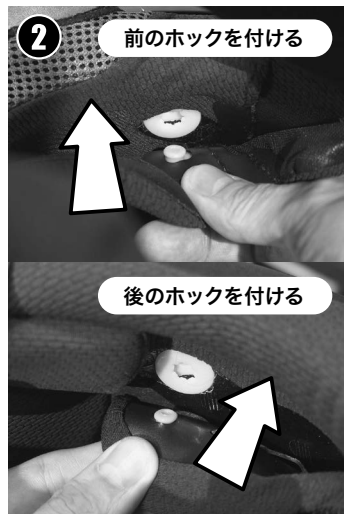
①内装の前後の向きに注意して、半球形に開いているシステム内装を折り畳んでヘルメット内に収めます。そして、ヘルメットの内部で元の形に広げます。



②内装のそれぞれのホック位置を合わせて押し込みます。

ONE POINT!

かぶり心地に影響を及ぼしますので、システム内装取り付け完了後に内装の歪みを必ず整えてください。



ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗車用手袋をヘルメット内に入れると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋に設けられたプロテクターやエアダクト類がヘルメットの内部を傷める場合がありますのでご注意ください。

調節パッドによるシステム内装のサイズ調節

システム内装には、容易に剥がすことができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことで、システム内装のサイド部を片側で約5mm薄くすることができます。

①システム内装のサイドパッド（側頭部にあたる部分）の外側のポケットをめくります。



※システム内装のリアパッド（後頭部にあたる部分）も同様に剥がすことができます。

Image

②調節パッドは、本体パッドにストライプ状に部分接着されているので丁寧に剥がしてください。その後ポケットを閉じてシステム内装の形を整え、ヘルメットに取り付けてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。



調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようご注意ください。剥がした調節パッドは、お住まいの地域の「軟質ポリウレタンフォーム製品」の分別ルールにしたがって廃棄してください。

Q ヘルメット内装サイズの調節

■標準設定の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で、頭周りと頬部のサイズ調節が行えます。システム内装とシステムパッドの厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には、お持ちのヘルメットの標準設定をご参照のうえ、お選びください。

システム内装による頭回りの調節

【54と55-56】そして【57-58と59-60】には
其々共通の内装枠が使用されています。この事により表のような頭周りの微調整が行えます。内装枠サイズはギリシャ数字(I~V)で表示されています。この枠の数字が異なると取り付けることができませんのでご注意ください。

ヘルメットサイズ	内装枠サイズ・パッドの厚み		
54 cm	II-7mm	II-10mm	
55 - 56 cm		II-7mm	II-10mm
57 - 58 cm	III-7mm	III-10mm	
59 - 60 cm		III-7mm	III-10mm
61 - 62 cm		IV-7mm	
フィット感	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

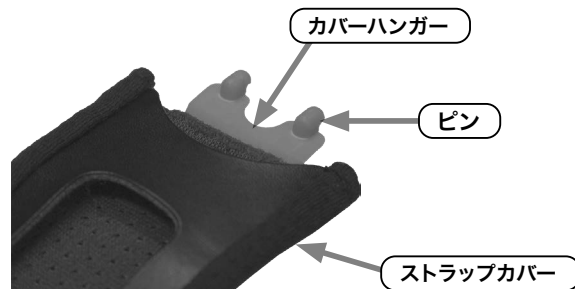
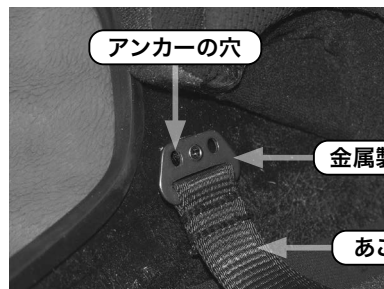
システムパッドによる頬部の調節

システムパッドは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通です。基本的に全サイズのヘルメットに、どの厚さのシステムパッドも取り付けることができます。しかし、標準設定よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合があります。

ヘルメットサイズ	システムパッドの厚み		
54 cm	20 mm	25 mm	
55 - 56 cm	15 mm	20 mm	25 mm
57 - 58 cm			
59 - 60 cm	12mm	15 mm	20mm
61 - 62 cm			
フィット感	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

R ストラップカバーの着脱

TX-V EP ストラップカバー関係の各部名称



TX-V EP ストラップカバーの取り付け準備

まず、ストラップカバーの左右表裏の確認を行います。ストラップカバーは合成皮革が縫い付けられている方を【裏】とします。



お知らせ

ストラップカバーの大きさはヘルメットサイズによって異なります。本書53ページをご参照になり、お買い求めの際にはご注意ください。

TX-V EP ストラップカバーの外し方

■予め、左右のシステムパッドを外しておきます。

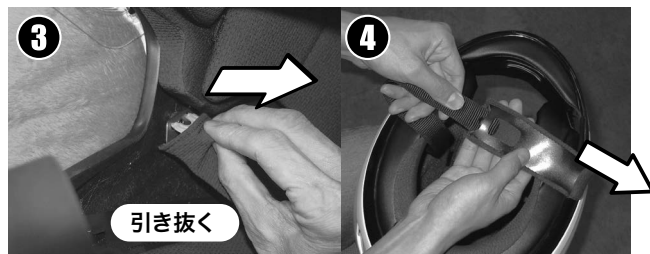
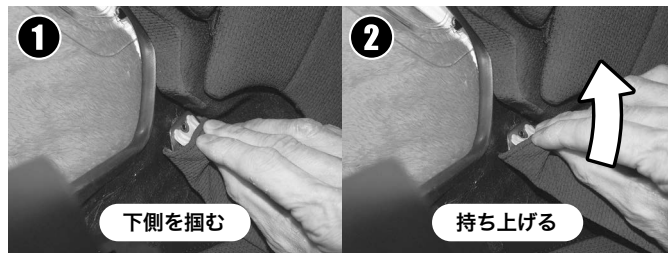
(本書34ページ参照)

❶あご紐基部の金属製アンカーには、ストラップカバーの取り付け具【カバーハンガー】の返しがついたピンが差し込まれているので、カバーハンガーの下をしっかり持ちます。

❷ピンの部分を起点として、カバーハンガーを持ち上げます。

❸ピンが穴から外れたら、金属製アンカーからピンを引き抜きます。

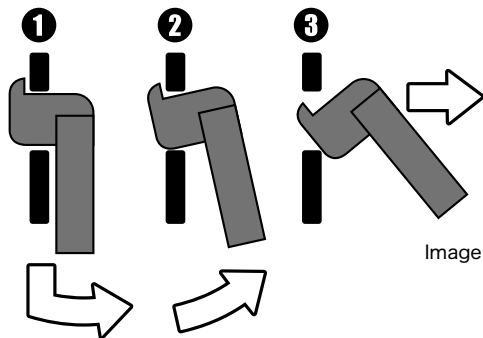
❹ストラップカバー全体をあご紐から抜き取ります。



CHECK POINT !



◀ホームページにて、ストラップカバーの着脱方法に関する動画を配信しています。



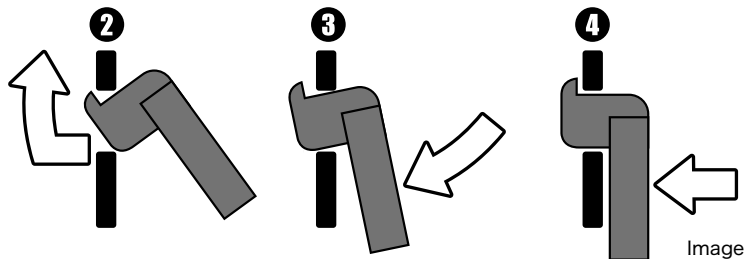
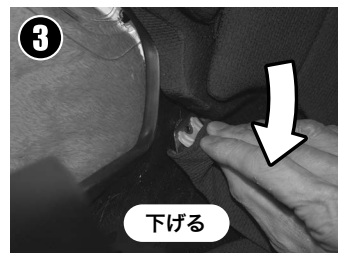
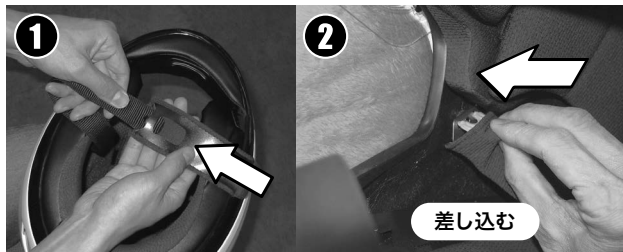
TX-V EP ストラップカバーの付け方

①ストラップカバーをあご紐に差し込みます。

②金属製アンカーの二つの穴に【カバーハンガー】のピンを差し込みますが、返しを先に通すために少し斜めにします。

③ピンの返し部分が入ったらカバーハンガー全体を下げます。

④カバーハンガーを金属製アンカー側に押し付けてピンを完全にはめ込みます。



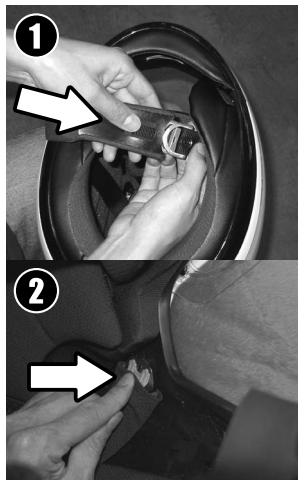
Dリング側ストラップカバーの取り付け

- ①ストラップカバーの裏（合皮側）を手前に向け、Dリング側のおご紐をストラップカバーに差し込みます。
- ②カバーハンガーのピンを、金属製アンカーの穴に差し込みます。（本書46ページを参照）



ONE POINT!

カバーの途中に開いている穴に指を入れてDリングを送り出すと、楽に通すことができます。



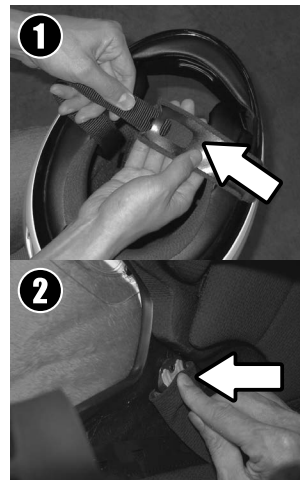
右側ストラップカバーの取り付け

- ①ストラップカバーの裏（合皮側）を手前に向け、右側のおご紐をストラップカバーに差し込みます。
- ②カバーハンガーのピンを、金属製アンカーの穴に差し込みます。（本書46ページを参照）



ONE POINT!

おご紐は、刻印の入ったスナップの頭を手前に向けてカバーに通します。



ストラップカバー未装着の状態ではヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際にストラップカバーが外れるおそれがあります。

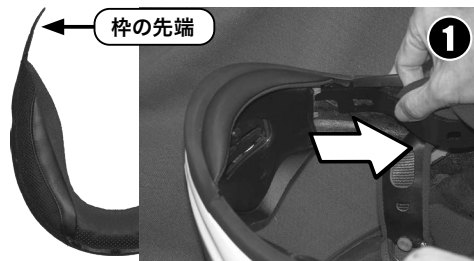
S システムネックの着脱

TX-V EP システムネックの取り外し

予め、左右のシステムパッドを外しておきます。(本書34ページ参照)

①センターパッドの裏に差し込まれているシステムネックの【枠の先端】を、左右とも抜き取ります。

②システムネックの中央をしっかりと持ち、横に3～4cmほどひねります。すると、システムネックが移動してロックが解除されるので、システムネックを安全に取り外すことが可能となります。



ネックの中央をしっかりと持つ。



横にひねるとネックがスライド。

※ひねる方向は、左右どちらでも可能。



ネックを持って取り外します。



システムネックを外す際は、縫製のほつれ防止のためシステムネックを枠ごとしっかりと持ってください。また、ヘルメットを持ち歩く際にシステムネックを持つと、システムネックが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

TX-V EP システムネックの取り付け

①システムネック両端をすぼめ、ヘルメット内に一旦入れます。そして、ライナと帽体の隙間にシステムネックの杵を均等に差し込み、システムネックの左右のズレを修正しておきます。

②次にシステムネック後部のフックの取り付けを行います。左右のフックを上から押し込んで取り付けます。

ONE POINT!

取り付け後にシステムネックを少し引っ張ってもフックが外れないことを確認してください。

③システムネックの【杵の先端】をセンターパッドの裏に差し込み、システムパッドを取り付ければ作業終了です。

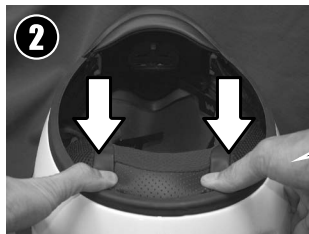
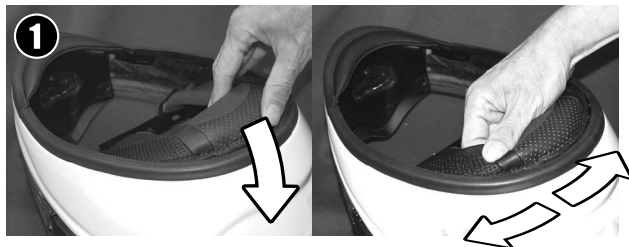
お知らせ

システムネックの大きさはヘルメットサイズによって異なります。本書53ページをご参照になり、お買い求めの際にはご注意ください。

CHECK POINT!



◀ホームページにて、システムネックの着脱方法に関する動画を配信しています。



フックの位置



ATTENTION!

杵の先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に露出して皮膚に接触するおそれがあります。

T ヘルメットのお手入れ

パーツ類のお手入れ (中性タイプの台所用洗剤をご使用ください)

バイザーやワッシャー、ダクトなどのパーツ類は、洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。



お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。



シールドのお手入れ (中性タイプの台所用洗剤をご使用ください)

シールド表面にオイルやワックス、ガソリンなどが付着すると、目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは、薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。



シールド素材は耐衝撃性に優れたものですが、アルコールを含むクリーナーやシンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用した場合、素材が侵されシールドにヒビ割れが発生し、万一の衝撃時に破損するおそれがあります。



シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間浸け込むのは絶対にお止めください。



ヘルメット本体の洗ひ方 (中性タイプの台所用洗剤をご使用ください)

ヘルメット本体を丸洗いする時は、ヘルメットからバイザーやシールド、着脱式内装を取り外してヘルメット全体を中性洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で充分に濯ぎ、ペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所に、ヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



乾燥させる際、50℃以上加熱したりヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナーが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。



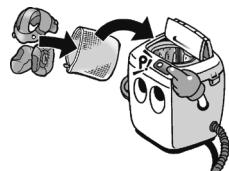
内装のお手入れ (中性タイプの洗濯用洗剤をご使用ください)

フルシステム内装 (システム内装・システムパッドのカバー・あご紐カバー・システムネック) をヘルメットから取り外して手洗いを行いますが、システム内装は内装の枠を折り曲げたり変形させないように、やさしく洗ってください。そして、洗い終わったら水でよく濯いで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



エコピュア仕様の内装は、路面に直接ヘルメットを置いたり、内装生地よりも硬い物で強く擦ったりすると、ほつれや毛羽立ちが生じる場合がありますのでご注意ください。尚、内装にほつれや毛羽立ちが生じた場合は新しい内装をお買い求めになり、交換を行ってください。

内装を洗濯機で洗う際は、必ず「お洗濯ネット」に入れ、ソフト・弱・手洗いなど素材に負担をかけないモードを選択してください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。※



※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

U オプションパーツリスト

パーツ名		部品番号
VAS-A MV シールド	クリアー	031100
	セミスモーク	031101
	スモーク	031102
VAS-A MV ピンロックシート120XLT (クリアー)		011084
TX-V バイザー	グラスホワイト	091344
	グラスブラック	091345
	フラットブラック (艶消し)	091346
TX-V ホルダー(左右セット)		021085
TX-V2 ホルダー (左右セット)	グラスホワイト	021091
	グラスブラック	021088
	フラットブラック	021090
	スモーク	021093
	フラットスモーク	021094
TX-V バイザーワッシャー (TX-V バイザーネジ付)		021080
VAS-A シールドベース		021075
TX-V バイザーネジセット		111010
スーパーアドシスネジセット		112511
VA ノーズディフレクター		082365
ES チンカパー V		075711

パーツ名		部品番号
デルトダクト6	グラスホワイト	104830
	グラスブラック	104831
	フラットブラック (艶消し)	104832
	スモーク	104836
AR スポイラー	グラスホワイト	102130
	グラスブラック	102131
	フラットブラック (艶消し)	102132
	スモーク	102136
フロントロゴダクト	白 / グレメタ	102105
	黒 / グレメタ	102104
	黒 / ライトグレメタ	102103
	シルバー / グレメタ	102111
TX-V マウスシャッター (ネジ付)	グラスホワイト	105320
	グラスブラック	105321
	フラットブラック (艶消し)	105322

パーツ名			部品番号
TX-V EP システムパッド	12mm		055382
	15mm (59-60) (61-62)		055383
	20mm (55-56) (57-58)		055384
	25mm (54)		055385
TX-V EP システム内装	II -10mm (54)		075471
	II -7mm (55-56)		075472
	III -10mm (57-58)		075475
	III -7mm (59-60)		075476
	IV -7mm (61-62)		075479
TX-V EP システムネック	小・中	(54) (55-56) (57-58) (59-60)	075462
	大	(61-62)	075463
TX-V EP ストラップカバー	小・中	(54) (55-56) (57-58) (59-60)	075465
	大	(61-62)	075466

※アライヘルメットではヘルメットやパーツ類のお客様への直接販売を行っていません。お客様のお近くのオートバイ用品取扱店にてご注文及びご購入ください。

オプションパーツの価格、記載されていないパーツにつきましては、アライ製品のカatalogやアライヘルメットのホームページをご参照ください。尚、通信料はお客様のご負担となりますので、予めご了承ください。

内装生地のコットン化について

ヘルメットの内装生地には化学繊維が使われています。しかし、天然素材以外は使用できないお客様のためにコットン(綿100%)内装の製作ご相談も、アライヘルメット品質管理部で受け付けています。

※コットン生地への変更は着脱式内装にのみ行われますなおコットン内装の色は標準内装とは異なりますので予めご了承ください

アライヘルメット品質管理部

☎048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土日、祝日を除く）

▼エマージェンシータブ補足説明

エマージェンシータブとは、ライダーが何らかの衝撃で負傷し、救護者がライダーのヘルメット脱帽させる際に、システムパッドを引き抜くことで、ヘルメットの脱帽をスムーズにすることを目的としたシステムです。救護者は、緑ゴムのステッカーや、システムパッドのポイントラベルで負傷者の着用するヘルメットがエマージェンシータブに対応している事を認識できます。※緑ゴムステッカーをヘルメットから剥がさないでください。

EMERGENCY
PERSONNEL
ONLY

エマージェンシータブを引き抜く前に行うこと

救護者はライダーの頭部及び頸椎保護のため、ヘルメットをしっかりと保持してあご紐を予め外しておきます。尚、あご紐を外せない場合は切断します。



①ポイントラベルを確認

負傷者のヘルメットを観察し、ヘルメットに設けられたエマージェンシータブの目印(ポイントラベル)を確認します。



②エマージェンシータブのポイントラベルを摘んで引き出す

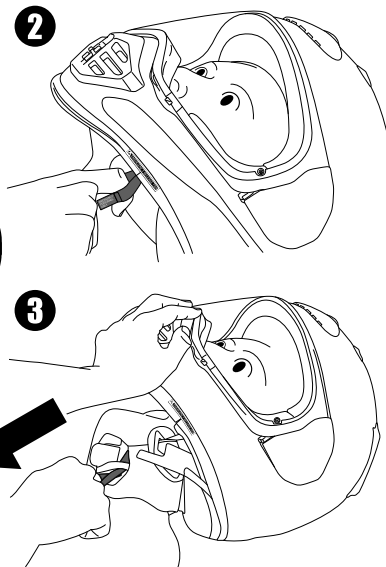
ポイントラベルを指で摘んで、格納されているループ状の紐を引き出します。

③ラベルに指をかけ、システムパッドを引き抜く ※

負傷者の頭部が動かないようにヘルメットをしっかりと支え、ループ状になった部分に指をかけます。

ヘルメットに対して垂直に力をかけ、システムパッドのツメ部分まで外れたら、少し後ろに引き抜くようにして、システムパッド本体を脱着します。（※図を参照）

※ネックパッドとシステムパッドの一部が接合されている場合がありますが、脱着する過程で分離します。



走行中や、普段のメンテナンスなどの目的で使用しないで下さい。
尚、事故状況やライダーの状態によっては、エマージェンシータブがシステムパッドの取り外しを確実にこなう有効な手段とならない場合があります。



株式会社アライヘルメット

〒330-0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12

TEL 048-641-3825

受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理部まで。

TEL 048-645-3661

受付時間：午前9時～午後5時（土曜・日曜、祝日を除く）